

「持続可能な社会」探る

福井でユネスコフォーラム



国際交流やまちづくり活動などの発表を通して持続可能な社会づくりを考えたフォーラム＝16日、福井市のアオッサ

高校生や団体活動発表

教育や伝統、環境保全などに関する活動発表を通じ、地域や国際社会での相互理解を深め持続可能な社会づくりを

考える「ふくいユネスコフォーラム2017」(福井新聞社後援)が16日、福井市のアオッサで開かれた。

ふくいユネスコ協会などが主催。会員や一般ら約80人が、高校生やまちづくり団体の取り組みに耳を傾けた。

福井南高3年の守屋佑香さん(18)は、カンボジアでの経験を発表した。同国ではニューハーフに対し否定的だったが、自分らしく生きる性的少数者(LGBT)を次第に理解するようになったとし「宗教や人種、国籍といった差別は見えにくい争い。これらの差別の解決策を見つけていきたい」と語った。

タイの児童と壁画を共同制作した坂井市鳴鹿小の細川桂子教諭は「クラス全体で目標に向けて取り組み、達成感があった」と紹介。「いろんな国と交流し仲良くなりたいと児童が考えるようになった」と成果を報告した。

福井市東郷地区の住民グル

ープは、これまでのまちづくり活動をスクリーンで披露し「行政任せではなく、地域で課題を共有し解決しよう」と訴えた。

(中野克規)